

はない、各工場の代表者としてである」と説明し「それでは連署した上で出すのが至當であらう」との事にて職工等の「最後の希望としての願書一覽のみにても宜敷」との懇訴に對し、課長は漸く「個人として一應讀了午後懇談する」こととしたり。是を以て第一回會見を終り、委員は直ちに其旨を報告し、約八百六十名の調印を探り、午後二時より岩崎職工係長立會の下に再度の會見を爲せり。第二回の會見に於ても亦野村課長は執拗に其書式等を追求したる後縷々數方言を費して會社の所懐を述べて要求書を受取らんとせず、遂に要求書不受理の儘物別れとなれり。一面、工場は嘆願書持参と同時に意業に入り、晝食時には隊伍を編成して場内に示威運動を行ひ、小旗を振るものあり、「メガホン」を携ふるものあり、其後は引續き就業せずして、造船工場に隣接せる電機會社工場に於て平穩に作業せる職工に對し投石其他の脅迫をなして其作業を妨碍し、午後電機會社工場の一部も亦作業を中止するに到れり。

内燃機及造船工作部二千の職工は終業とともに内燃機門前より打ち揃つて「三菱不當解雇糾弾演說會場」たる港川勸業館に赴くところあり。演說會は同會者和田惣兵衛氏の「一二の代表者を敲首する如きは更に事件を紛糾せしむるものなり」との意見に初まり敲首職工一宅正夫其他の演說に次ぎ、友愛會神戸聯合會主事代理柴田富太郎、同神戸聯合會長老木村錠吉兩氏の激勵演說ありて十時半閉會したり。

同演說會終了と共に内燃機及造船工作部爭議幹部約四十名は勸業館裏手に集合し、三菱所屬各工場を完全に立たしめ結束せしめ所定の要求を貫徹せしむるの方途如何を凝議したり。然るに偵羅の守衛は何を誤りけん七日午前二時に到り造船所守警課は非常通知を發して曰く「前夜演說會散會後午後十一時内燃機、造船所及川崎造船所職工の幹部約四十名は同館裏に集合して、七日午前六時半内燃機工場門前に集合、同五十五分第一汽笛により、定例表門閉鎖（註：遅刻者點檢の爲め之を規定とす）と同時に一同表門を破壊闖入して、工場及機械を破壊し就業中の各工場を攪亂すべしと決議せり」と。此警報に接したる工場幹部は、且怖れ、且戒め、事態斯の如きに到りては到底會社のみの力を以てしては未然に暴行を阻止する能はざるべしと爲し、午前三時兵庫警察署に警戒方を願ひ出でたり。午前五時三十分白木兵庫署長は自ら警官約五十名を提げて警戒の任に當るため出向す。一方會社のかゝる苦心を知らざる職工團中、齡川槌右衛門を初め解雇されたる數名の職工は、午前六時半開門に先ち警備員として内燃機表門に到り一々入場者を監視したるため同工場の一部約二百五十名は遂に入場せず。悉く表門前廣場に集まれり。斯くて六時五十分の汽笛鳴り表門を閉ぶこと平日の如くなるを得たり。然るに午前七時始業時に到るや一旦入場しる機械、仕上、道具工場の各職工は就業せず、約六百名は出門、門前の集團に加はり、残れる木型工三十七名の一派は「煽動的脅迫を受くるの惧あれば退場すべし。然れども決して硬派に附和雷同するものに非ざる」旨を土井喜一技師を通じて會社に聲明し土